

も く じ

第12章 適切なパーソナリティ 1

適切なパーソナリティとは何か? 4

適切さについての知覚的な見解 5

適切さの理解への特性からのアプローチ, 対, 知覚的な
アプローチ 20

適切な人びとのいくつかの行動の特徴 23

適切な自己とその社会 36

適切な自己はどのように発展するか 41

危機にある適切な人間 45

第13章 不適切なパーソナリティ: 失敗の

ダイナミックス 47

不適切な人びとの知覚的な諸特徴 49

脅威を取り扱う諸テクニック 57

神経症の解剖——おびえた人びと 80

精神病のダイナミックス——絶望的な人びと 92

第2部 知覚的なアプローチの応用

第14章 人間関係のためのいくつかの一般的な意味 115

人間関係の諸事実 115

責任ある行為者としての人間 118

人間の諸問題を取り扱うことへのふたつのアプローチ 121

因果関係というあるひとつの直接的な見方に含まれている
いろいろの意味 128

適切さを求める要求に含まれているいろいろの意味 136

攻撃—譲歩の二方法 139

第15章 個人とその社会	145
擬人法の神話	146
原理 1	149
原理 2	151
原理 3	152
原理 4	155
文化の変化の心理学	158
グループの葛藤の解決	161
よい社会とはどのようなものか?	170
変化してゆく人びとのひとつの問題——文化の変化	175
社会の変化のためのひとつの道具としての個人	177
第16章 どのようにして人びとは自分自身を 援助しうるか	183
選択の累積効果	184
進んで見ようとする事	187
自己改善の目標：適切な自己	189
第17章 教育の目標および目的	208
教育は個人的な意味を取り扱わなければならない	218
現象の自己	223
第18章 教授関係	237
教授：意味の変化の促進	239
学習のための雰囲気	245
情報の供給	252
意味の再体制化	254
行動の変化のための道具としての教師	261

第19章 処遇への個人的なアプローチ 281

サイコセラピーとは何か?	284
サイコセラピーはほかの諸援助関係とはどのように違うか	286
処遇における“知識”の位置	294
二種類の処偶	299
知覚の変化を通しての個人的な処遇	305
セラピーのデータ——諸知覚	307
意味の探索	317
処遇の所産——自己の再体制化	324
変化の永続性	327

第20章 意味の探索 329

知覚の研究における推測の位置	334
知覚の場を探索すること	342
知覚の場を探索する諸方法	347
人の個人的な場を探索すること	350

参 考 文 献 370

文 献 一 覧 表 377

編 者 あ と が き 405

人 名 索 引 411

用 語 索 引 413